

13 保護者の SNS 利用が子どもに与える影響とは？

SNS は今や大人にとっても日常の一部。育児の記録や家族の思い出を投稿したり、情報収集や交流の場として活用したりする方も多いでしょう。しかし、保護者の SNS 利用が子どもにどんな影響を与えているか、意識したことはありますか？

まず注目したいのは「保護者の投稿が子どものプライバシーに関わる」という点です。何気なく載せた写真やエピソードが、子どもにとっては恥ずかしかったり、知らない人に見られたくない内容だったりすることがあります。「うちの子、こんなことして笑っちゃった！」という投稿も、本人の気持ちを確認せずに公開すれば、信頼関係を損なう原因になりかねません。

また、大人が SNS に夢中になる姿を見て、子どもが「スマホばかり見ている」「話しかけても反応がない」と感じることもあります。これは、家庭でのコミュニケーション不足につながり、子どもが「自分より SNS が大事なのかも」と誤解することもある。保護者の行動は、子どものメディアとの付き合い方に大きく影響します。

さらに、保護者が SNS で過激な言葉や偏った情報を発信していると、子どもはそれを「普通」と受け止めてしまう可能性もあります。家庭での情報モラル教育は、まず保護者自身の姿勢から始まるのです。

SNS は便利で楽しいツールですが、使い方には責任が伴います。子どもの写真や情報を投稿する際は、本人の気持ちを尊重すること。スマホを使う時間や場面を意識し、家庭での会話を大切にすること。そして、発信する言葉が誰かを傷つけていないかを考えること—これらを意識するだけで、子どもにとって安心できる家庭環境が整います。

まずは自身の SNS の使い方を振り返ってみませんか。

14 「見守る」と「監視する」の違いを考える

子どもがスマホや SNS を使うようになると、保護者としては「ちゃんと安全に使えているだろうか」「トラブルに巻き込まれていないか」と心配になるものです。そこで、利用状況をチェックしたり、アプリの履歴を確認したりする方もいるでしょう。しかし、その行動が「見守り」なのか「監視」なのか—この違いを意識することが、子どもとの信頼関係を築くうえでとても重要です。

「監視」とは、子どもの行動を一方的にチェックし、問題があればすぐに指摘・制限すること。保護者が安心したいがために、子どものプライバシーを無視してしまうこともあります。これでは、子どもは「信用されていない」と感じ、保護者に本音を話さなくなってしまう可能性があります。

一方、「見守り」は、子どもの成長を信じながら、必要なときに手を差し伸べる姿勢です。たとえば、「困ったことがあったらいつでも話してね」と声をかけたり、「どんなアプリを使ってるの？」と興味を持って聞いたりすることで、子どもは「保護者は味方だ」と感じるようになります。見守りは、子どもが自分で考え、選び、失敗から学ぶ力を育てる土台にもなります。

もちろん、年齢や状況によっては、ある程度の制限や確認が必要な場面もあります。ただし、その際も「なぜこの設定が必要なのか」「どうすれば安心して使えるか」を家庭で話し合うことが大切です。ルールを一方的に押しつけるのではなく、納得感を持って共有することで、子どもは自分の行動に責任を持てるようになります。

「見守る」と「監視する」の違いは、保護者の姿勢にあります。子どもを信じ、対話を重ねることが、情報モラル教育の第一歩です。今日から少しずつ、「見守る保護者」への一歩を踏み出してみませんか。